

グループわ わんぱく広場を担当

しあわせの村 村まつり

「やったー！跳んだ」。はねかえるの遊び方を真剣な顔で、教えてもらっていた6歳位の坊やの顔がパッと笑み崩れました。7月25日午後4時から開かれたしあわせの村まつりのわんぱく広場での一瞬。



グループわ は、わんぱく広場を担当。むかしあそび研究会がコマまわし、紙トンボ、ぶんぶんごま、はねかえる、ヨーヨーつり、けん玉、割り箸鉄砲、竹馬のコーナーを設けました。うらしまたろうはバルーンアートと皿回し、本部はフロアカーリング、妖怪ホイホイと輪投げを受け持ちました。スタッフは約70人が出動、汗だくで、お茶を飲む暇も無い位。

妖怪ホイホイは初の登場。長さ約5メートルのシートの上を妖怪ホイホイの顔をつけた楕円型の板をスタッフがゴムで引っ張って飛ばします。ゴールの箱の前でスリッパを手に待ち構える子どもが真上から打ち下ろして止めたら得点、箱の中に3回入ったらゲームは終了、別の子と交代します。午後6時30分の終了まで、遊ぶ人が絶えませんでした。

ヨーヨーつりも人気があり、順番待ちの長い列。一度に3つも釣り上げる子がいて、スタッフもびっくり。竹馬はハシが支えてあげ、ようやく4歩、5歩と歩ける子ども。バルーンアートでは出来上がった風船を渡した途端、なぜか破裂してしまうハプニングも。

しあわせの村を運営する福祉振興協会の話では、この日の人出は約24000人。まつりの目玉、午後7時からのアグネス・チャンショーは大好評だったそうです。

面白かった！ マイお箸づくり

水の科学館「ものづくりイベント」

グループわ がコーディネートした水の科学館での「ものづくりイベント」は大変、好評でした。8月4日から16日までの12日間、毎日午前10時から午後3時まで、<わ>のスタッフ10人内外が会場に詰め、子どもたちと楽しみました。

「ほんま、助かるわ。クーラーが効いて、無料で子どもを遊ばせてもらえて。部屋の中やから安心やし」——。12日の親子で楽しむマイ箸作り会場で、若いママさんが口々に話していました。

マイ箸作りは、花実の森PJの担当。午前・午後の部とも各親子10組が先着順で挑戦。箸の形の削り台を作業台にセット、安定させてから、作業を進めます。次に荒削りしてある黒檀の箸材で本番。初めての人がほとんどで、スタッフは子どもにつきっきり。カンナの角度や力の入れ方など、手助けしました。自分の好みの形や太さに削ります。大体仕上がると、サンドペーパーで表面を磨きあげ、使いやすい長さに箸を切断、仕上げます。折り紙で箸袋も作りました。

子どもたちは額に汗をにじませ、削りすぎるなど苦心惨憺。小さな手でカンナを使うのは難しそう。静岡の小学生姉妹は神戸の祖父宅に遊びに来ていて、5日の絵手紙教室に参加。箸作りにも挑戦し「面白かった。神戸のいいお土産になる」と目を輝かせていました。

◆その他の催し▽8月4日＝機関車など車作り(木工グループ)▽5日＝絵手紙(絵手紙グループ)▽6日＝押し花絵葉書(ケナフの会)▽7日＝工作(むかしあそび研究会)▽8日＝銭太鼓実演(楽遊クラブ銀雅)▽9日＝バルーンアート(うらしまたろう)▽11日＝パーニングアート(花実の森PJ)▽13日＝どんぐり、松かさクラフト(里山和楽会)▽14日＝マジックショー(KSCマジッククラブ)▽15日＝マグネット帽子作り(たんすの肥やし)▽16日＝割りばし鉄砲(むかしあそび研究会)

(以上2本 広報 永野 知己)



暑い中 昆虫採集頑張りました

グループわ は里山和楽会の皆さんと一緒に、夏休み「昆虫採集と標本作り」教室を開催しました。

8月1-2日の両日、午前、午後の4回に分けて延べ120人の児童を対象に開催し、先ず神戸小動物生態研究会代表の宮崎敏弥先生が昆虫採集の手ほどきなどを説明後、虫取り網を片手にお父さん・お母さんと一緒に昆虫採集に懸命に頑張りました。昆虫採集後に、標本作りのアドバイスをもらいながら、標本を完成させ、全員がその出来栄を発表しました。

(広報 藤田 健一)